

2018年度事業報告書

特定非営利活動法人まち・コミュニケーション

【2018年度の活動の総括】

2018年度も多くの方々に支えられ、活動ができました。おかげさまで、任意団体設立から23年を迎え、継続できています。感謝いたします。

東日本大震災、熊本地震、西日本豪雨の被災地に通い、被災者の生活再建や地域の復興まちづくりの支援活動を行いました。

これまでの震災復興まちづくり支援の経験から、防災や事前復興まちづくりの重要性を伝えるため、南海トラフ地震の被害が予想される地区に出向き講演活動等や、防災まちづくりに携わる仲間を増やしていこうと、伝える場づくり（“被災地のつぶやき”のインターネット発信、勉強会の開催等）を大事にしました。

各事業について下記で報告させていただきます。ご指導よろしく申し上げます。

【事業報告】

まちづくり部門

●被災地復興支援事業

①東日本大震災

東日本大震災の被災地で、支援活動を行いました。宮城県石巻市に滞在し、雄勝町を中心に石巻市・宮城県にて、地域の会合や催し等に参加し、復興状況を把握すると共に、地域住民の生活再建を聞き取り調査で追い、地域住民の声から現状を把握し、共に復興を考えました。転出者の集いにも参加し、地域を離れた方の生活再建状況や再建の方向性等を把握しました。

今年度は、福島復興についても学ぶ勉強会を開催し、実際3月、7月に福島を訪問し、被災者や支援者と現状を把握しました。

震災から7年目をむかえ、生活再建は一人一人異なっており、多様な支援が必要になってきています。

当団体は23年間、阪神・淡路大震災の被災地に常駐し、地域の人々の心の機微を感じながら、継続的に復興まちづくり支援をしてきました。そのノウハウを伝える重要性を感じ、社会福祉協議会や行政職員、地元ボランティア団体等からの相談を積極的に受け入れてきました。テーマは“復興まちづくりの状況把握”、“仮設住宅から公営住宅への移行”、“支援活動の地元地域への効果”等多岐にわたり、当団体のネットワークを活かしての支援も行いました。

具体的には下記のとおりです。

- ・勉強会や視察で得た資料や助成金の情報等を、生活再建中の被災者や団体へニーズに合わせて送付しました。
- ・災害による家をなくしたことで、居住地選択により、集落の住民が少なくなりました。地域組織の運営（議事録づくり等）で支援しました。
- ・復興住宅を支援しようとする宮城県多賀城高校の生徒が、神戸事務所に学びに来てくれました。阪神・淡路大震災や熊本地震の関係者と東日本大震災の関係者を繋ぎました。
- ・3月には大阪府の東日本大震災の催しと、雄勝町をインターネット中継で繋ぎました。
- ・3月9日～15日は、まち・コミで、募集した参加者と共に、7年目の沿岸部を回りながら、地元住民や外部支援者と意見交換をしました。
- ・地域の歴史を共有することが重要だと考え、雄勝歴史研究会に参加しました。
- ・宮城県や岩手県の津波被災地を訪問し、地元組織の相談事業をしました。

※日程は、1/19～1/23、3/7～14、5/8～13、7/26～8/1、9/2～15、11/30～12/1です。

②熊本地震

2016年4月14日の熊本地震から、2年を経ました。住まいの再建とコミュニティの持続が課題になっています。そこで、熊本での講演会で伝えたり、現地の専門家等と連携しながら、住まいの再建に関する勉強会を行いました。

下記に、訪問日と場所と内容を示し、報告します。

1. 3月24日～28日：インドネシアの噴火災害からの集団移転事業を研究するインドネシア人留学生（神戸大学）と共に、熊本の今後の復興まちづくりを模索される方へ、これまでの災害の事例を伝えました。町屋再生を目指すプロジェクトでは、まち・コミが以前に行った古民家移築の事例報告もしました。
2. 4月7日～10日：御船町商工会にて講演をし、その後益城町、南阿蘇村、西原村等を再訪問しました。継続的課題を把握し、情報提供を行いました。
3. 6月20日～25日：南阿蘇村と西原村を、大学生や外部支援者と訪問し、地域の現状を学ぶ機会を作りました。その後、熊本市内で、復興まちづくりに関わる大学教授と、過去の災害復興の経験者、住民で集い勉強会や相談の場を持ちました。
4. 7月15日～17日：外部支援者が企画した地元住民組織が集う会に参加し、復興の状況を把握しました。16日夜に、地元建築士と支援者と被災者で、住まいの再建に悩む方々へどのように対応していくべきか、勉強会を行いました。地元組織の復興まちづくりの会に参加しました。17日は、熊本県庁に、住まいの再建状況について聴き取りをしました。夜には、熊本市内で、熊本を支援するボランティアの方々へ復興まちづくりの講演をしました。



▲6月22日住民と専門家て被災状況の確認（熊本） ▲3月10日インターネットで大阪へ繋ぐ（東北）

③西日本豪雨

7月の豪雨直後に、広島県・岡山県・愛媛県に行きました。被災地を回りながら、現状を把握しました。泥だしのボランティア活動をしながら、住まいの相談に乗りました。

広島県弁護士会で講演をしました。

④大阪北部地震

大阪府豊中市千成地区で、代表理事の宮定が防災講演会をした翌日に大阪北部地震が起こり、自転車で千成地区を訪問し、現状をお聴きしました。機会を見つけて、今後も、地域の防災活動に関わっていきます。

●地域まちづくり支援事業

神戸市長田区御蔵地区において、1月17日の慰霊法要の開催支援と、御菅西地区再建状況調査を行いました。調査結果は「季刊まち・コミ」冬号でご報告いたしました。

長年活動してきた実績から、小さな団体が活動を継続運営していくために必要なノウハウを伝えようと、各種団体の相談に乗りました。

①事前復興まちづくり

2016年度より、災害が起こってから初めてスタートさせる復興まちづくりでは限界があると確信し、事前復興まちづくりへも取り組みを始めました。

日本各地へ講師として出向き、備えの大切さや、災害後の地域づくりのポイントを伝えてきました。

南海トラフ地震での津波被害が予想されている徳島県海部郡美波町の方々と共に、西日本豪雨と北海道奥尻島の復興視察を行い学びました。

3月には、宮城県雄勝町、女川町を、大阪の東日本復興応援イベントの会場とインターネット中継で繋ぎました。4月には、静岡県の事前復興まちづくりを視察しました。7月21日には、大学関係者や行政職員がつくる徳島事前復興まちづくりネットワーク（仮称）に出席しました。

被災地のつぶやき（後述）でも、災害を経験していない方々へ、災害や、災害後の状況、

人の思いを、わかりやすく発信していこうと取り組みました。

【まちづくり研究調査事業】

大学生や学識経験者を、現地（神戸市、兵庫県、宮城県、熊本県）で受け入れ、調査・視察コーディネートや支援を行いました。阪神・淡路大震災、東日本大震災、熊本地震等、復興まちづくりの現場で行われていることを知っていただく機会となりました。また、復興まちづくり等取材するマスコミに対しての情報提供も行いました。

4月中旬には、避難所・避難生活学会の方々のイタリア訪問に同行し、災害支援について学びました。その内容は、季刊まち・コミ 2018年夏号や、各地での講演で報告させていただきました。

8月初旬には、台湾花蓮地震の被災地へも出向き、避難所運営やボランティア活動について学びました。

関東都市学会からニュース及び年報の発送作業と会費請求作業を受託し、2月、4月、9月、11月に発送。7月には、年報の発送も行いました。過去の年報をスキャンし、デジタルデータを納品しました。

<調査視察コーディネート・支援 実績>

日	属性	テーマ
1/17	まち・コミで募集	神戸：阪神・淡路大震災 23 年
1/20	東北放送	東日本：復興まちづくり
3/7～16	まち・コミで募集	東日本：復興まちづくり
3/24～28	神戸大学留学生	熊本：復興まちづくり
3/30	龍谷高校	神戸：復興まちづくり
4/7～10	まち・コミで募集	熊本：復興まちづくり
5/9	東北大学	東日本：復興まちづくりの継続性
5/21	民間企業	地震に強いまちづくりについて
5/24～28	まち・コミで募集	北海道：奥尻と有珠山の復興
5/29	自治組織	防災まちづくり
6/20～22	まち・コミで募集	熊本：復興まちづくり
8/2～3	まち・コミで募集	台湾：花蓮地震の現状
9/13～15	東洋英和女学院大学	東日本：復興まちづくり

まち・コミ事務局が視察・調査訪問

日時	場所	テーマ
4/18～22	イタリア	避難所、復興まちづくり
5/20	真野まちづくり勉強会	まちづくりについて

学びの場づくり部門

【震災体験学習事業】

2018年度は2校（高等学校）に対し、震災学習を実施しました。また、1月には被災地を歩くイベント「こうべ・あいウォーク」の参加者へ、豚汁を提供しました。

<2018年度震災体験学習受入状況>

日	学校名	生徒 (人)	教員 (人)	時間 (h)	場所	語り部 (人)
11/6	神奈川県 湘南学園高等学校	35	2	2	まち・コミ	5
12/6	東北学院高等学校	15	2	2	まち・コミ	5



▲11月6日 語り部の講話



▲12月6日 まち歩き(震災の火災で焼けた電柱)

【研修受入事業】

下記のとおり、兵庫県と宮城県にて、16件の研修を受け入れました。日本からは、高校生や大学生、社会人の視察がありました。海外からは、欧米やアジア諸国等の人びとを受け入れ、復興まちづくりについて伝えました。

<2018年度研修受け入れ状況>

日	受講者（主催者）	テーマ・目的	人数
1/7	多賀城高校	復興住宅とコミュニティー “高校生だから” できること	3
1/17	認定特定非営利活動法人レスキュー ストックヤード	震災から23年を経ての町や人の暮らしの変化、24年目の課題などについて	15
3/2	菟道地区民生児童委員協議会	民生児童委員として、災害後も、地域を守るために	20
3/2	中央大学ボランティアセンター	阪神・淡路大震災と東日本大震災比較から 復興事業と生活再建を考える	15
3/6	インドネシア、マレーシア留学生(関西国際大学)	震災復興まちづくり	15

3/30	関西大学社会安全学部	災害後も、地域を守るために～ 阪神・淡路大震災23年・東日本大震災6年・熊本地震1年の経験から～	10
3/30	龍谷高校	復興まちづくり	2
4/24	大邱市ボランティアセンター	災害ボランティア	40
5/21	神戸大学国際協力研究科	土地区画整理法とまちづくり条例を中心とする復興まちづくりの制度のフィールドワーク	20
7/14	兵庫県立大学	阪神・淡路大震災からの復興まちづくり	30
8/1	台湾大学・イリノイ大学 (in 石巻市)	復興まちづくりと外部支援者	20
9/1	兵庫県弁護士会	阪神・淡路大震災からの復興まちづくり	15
9/5	徳島大学ふるさと愛好会	東日本大震災の復興まちづくり	5
9/13	東洋英和女学院大学	東日本大震災の復興まちづくりと語り部	25
11/19	PHD 協会(インドネシア、ネパール、ミャンマー研修生)	防災と復興まちづくり	5
12/19	立命館大学 産業社会学部 丹波ゼミ	阪神淡路大震災の御蔵地区の被害の特徴 震災から復興に向けた地域の取り組み	5



▲ 1月7日多賀城高校（神戸）



▲ 8月1日台湾大学・イリノイ大学（東北）

【講師派遣事業】

依頼に応じ、下記のとおり講師・パネリストの派遣をいたしました。今年度は、日本国内だけでなく、海外（韓国）でも2回の講演を行いました。

<2018年度 講師・パネリスト 派遣実績>

日	主催者（場所）	講演テーマ	講師等	受講者数
2/3	大学コンソーシアム ひょうご神戸	多文化共生から始まる防災・減災と復興－ 今、ここから未来へ－	宮定 コー ディ ネー ター	80
3/9	仙台弁護士会	災害ケースマネジメント 阪神・淡路大 震災の事例紹介	田中	80
3/22	大阪府耐震推進協 議会	地震で、建築物は、つぶさない！私の命の ため 隣人の命のため まちの存続のため	宮定	80
3/29	日本 NPO センター	次世代の命のために ポスト震災復興への 挑戦！“ 共助 ” による 地域間交流と“ 語 る ” ことによる 被災者の想いの表現によ る地域づくり～阪神・淡路大震災23年・ 東日本大震災6年・熊本地震1年の経験か ら～	宮定	20
4/8	御船町商工会	復興とは何か？を見だし、明日からの力 にしよう！～阪神・淡路大震災23年・東 日本大震災7年・熊本地震2年の事例から ～	宮定	80
5/16	関西大学社会安全学 部菅ゼミ	インタビュー調査のコツと心得	戸田	26
6/1	KOBE 復興大学	まちづくりに憧れて～阪神、東北、熊本震 災の復興まちづくり協議会の実際～	宮定	40
6/14	大邱ボランティアセ ンター（韓国）	日本災害被害の事例と各地震の被害とボラ ンティアの被害復旧の事例	宮定	250
6/17	大阪府豊岡市千成地 区自主防災会	南海トラフ地震を見据えた『防災への備え』 ～阪神淡路大震災・東日本大震災・熊本地 震から学ぶ～	宮定	200
6/23	九州建築士会	建築士の被災地での活動～阪神・淡路大震 災23年・東日本大震災7年・熊本地震2 年の経験から～	宮定	400
6/28	東北大学教育学部	震災復興事業 と 生活再建の葛藤『人・ま ちづくりに魅せられて』～ 阪神、東北、 熊本震災に関わって ～	宮定	80

7/17	西日本豪雨災害の現場を聴いてみよう！ ～いま熊本からデジタルコトは？～	生活再建 と コミュニティーに向けて、外部者ができること～阪神・淡路大震災23年・東日本大震災7年・熊本地震2年の経験から～	宮定	10
8/22	葛飾区震災復興まちづくり訓練	首都直下型地震を見据えた『防災への備え』 ～助けてと言える地域づくり～ 復興まちづくり訓練(9月15日)に向けて ～阪神淡路大震災・東日本大震災・熊本地震から学ぶ～	宮定	80
9/2	みやぎボイス	居候しても、生活・文化を大事にした まちづくり関わりたい～阪神・淡路大震災23年・東日本大震災7年・熊本地震2年の経験から～	宮定 パネラー	20
9/27	ひめじ防災ラボ&スタディ	災害時に、自分が助かるコミュニティーづくり～西日本豪雨 と 過去の災害経験から学ぶ～	宮定	40
10/2	舞子高校環境防災科	災害時に、命が助かる 防災コミュニティーづくり～西日本豪雨 と イタリア北部地震 過去の災害経験から学ぶ 舞子高校生への期待～	宮定	50
11/21	広島弁護士会	災害復興は、総力戦で！～支援者は、被災者が、助けてと言える信頼関係を～ ～阪神・淡路大震災23年・東日本大震災7年・熊本地震2年の経験から～	宮定	80
11/25	豊中市庄内校区自主防災会	地震や台風・豪雨災害 今身がまえ備えなければ！	宮定	200
11/30	一般財団法人宮城県建築住宅センター	沿岸被災地の復興、人々の暮らし、なりわい、コミュニティ	宮定 パネラー	150
12/2	大学コンソーシアムひょうご神戸	「災害現場から考えるリーダーシップとは？」	宮定 パネラー	200



▲4月8日御船町商工会

▲6月14日大邱ボランティアセンター（韓国大邱市）

●まちづくり勉強会事業

震災復興まちづくりの教訓や経験を、今後の災害に活かそうと、様々な災害復興に関わる方々に講師としてお招きし計7回の御蔵学校を開催しました。

被災地の事を知ってもらおうと始めたインターネットサイト“被災地のつぶやき”を元に、顔を合わせて学ぶ勉強会を始めました。今年は、3月に石巻市～宮古市、熊本、5月に熊本、石巻市、5月に北海道、8月に台湾花蓮にて、現地ではつぶやき（被災者の思い）を聞く会を行いました。

<2018年度御蔵学校 開催実績>

日	内容	テーマ	講師	受講者数
1/14	第 49 回 御蔵学校	被災者の経験の記録は活かせるのか？	高森順子氏（公益財団法人ひょうご震災記念 21 世紀研究機構研究調査部主任研究員、大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程）	15
1/17	被災地の つぶやき 勉強会	阪神・淡路大震災から 23 年	宮定章	5
2/10	第 50 回 御蔵学校	夢・幽霊・死生観からの社会構想 ～東日本大震災 7 年を迎えて～	金菱清氏（東北学院大学教養学部地域構想学科 教授）	25
3/4	第 51 回 御蔵学校	被災者の再建に、“もう一つ” 必要なもの・こと ～場所と記憶 から 学ぶ～	佐々木俊三氏（東北学院大学教養学部地域構想学科 名誉教授、元副学長、東北学院大学災害ボランティアステーション所長）	12
3/7	被災地の つぶやき 勉強会	被災地のつぶやきを聴いてみよう（福島・宮城・岩手）		15

4/7	第 52 回 御蔵学校	自然と共生したまちづくりへの外部者の役割・発信～インドネシア・メラピ山噴火災害～	日比野純一氏（特定非営利活動法人エフエムわいわい理事） LINI OCVENETY 氏（神戸大学国際協力研究科、インドネシア、ガジヤマダ大学、メラピ山噴火災害研究）	12
4/14	第 53 回 御蔵学校	糸魚川市大規模火災からの復興の現状	太田亘（糸魚川市産業部復興推進課・UR 都市再生機構）	16
5/8	出張勉強会	イタリア地震視察・交流報告会（in 仙台弁護士会）	視察団	20
5/15	出張勉強会	まちづくり講演（in 法政大学）	宮定章	25
5/18	第 54 回 御蔵学校	避難所の景色（衣食住の考え）を変えよう！床に雑魚寝から、ベッドへ！	水谷嘉浩氏（J パックス株式会社代表取締役、避難所・避難生活学会）	18
5/24	被災地のつぶやき勉強会	被災地のつぶやきに耳をすましてみよう！（奥尻島 in 北海道）		4
5/27	被災地のつぶやき勉強会	自然と共生する地域づくりを学ぼう！（in 北海道有珠山）		10
7/25	出張勉強会	まちづくりの視点から、災害時復旧や事前に必要な視点を考えてみる（in 法政大学木二の会）	宮定章	20
8/2	被災地のつぶやき勉強会	花蓮地震 現地勉強会・交流会（台湾）		10
11/17	第 57 回 御蔵学校	地域で支え合う社会への挑戦	菊池亮氏（釜石市社会福祉協議会）、細川隼氏	7+15

交流の場づくり部門

●地域間交流事業

野菜作りを通じ、「鳥居やすらぎ市民農園」や地元の非営利組織「暮らしの学校の～ら」の方々と交流をしました。助けていただくことも多くと、地元の方々や購入してくださる

応援団に支えられながら、継続できています。今年度も、のべ 100 名近くの学生と社会人のボランティアの協力を得て、たくさんのたまねぎ、じゃがいも、黒豆をつくりました。



▲6月9日：たまねぎ収穫



▲10月20日：黒豆収穫

●国際交流事業

神戸市長田区、宮城県石巻市の当団体の活動現場に、多くの国の方々が訪問してください、復興まちづくりについて交流しました。

2月には、台湾花蓮地震の被災地支援に行きました。8月には、復興まちづくりの視察交流を企画し、日本の災害復興まちづくりへ活かすため、ボランティアや学識経験者と花蓮を再訪し、花蓮縣政府や地元ボランティア団体から、花蓮地震の被災地の状況を伺い学びました。

4月には、韓国大邱市のボランティアセンターが、ボランティア研修に神戸市長田区の事務所を訪問してくださいました。6月には、代表の宮定が、韓国大邱市へ講演に行きました。

4月には、避難所・避難生活学会のイタリア視察に同行し、イタリアの災害救助について学びました。



▲4月24日：大邱市ボランティアセンター受入



▲4月20日：イタリアの災害救助の方々と

●情報発信部門

下記の各事業のほか、積極的に、人が集う場に参加し、被災地の復興まちづくりやまち・コミの活動について発信しました。また、マスコミや各種団体の取材にも対応しました。

【情報発信事業】

① 季刊まち・コミ

4号、各号6ページの通信誌を発行しました。会員や寄付者のほか、事務所の来客等に配布いたしました。

<2018年度季刊まち・コミ一覧>

号	発行日	特集タイトル	郵送数
春号	3/30	2017年度 活動トピック	517
夏号	5/26	『災害が起きても尊厳を守るには』イタリア中部地震災害復興調査視察報告	541
秋号	9/23	『西日本豪雨・大阪府北部地震報告』	763
冬号	12/7	事前復興で、より早い住まいの再建を ～地域コミュニティ再生を目指して～、御菅西地区再建状況 ～阪神・淡路大震災から23年～	643

② WEBまち・コミ <http://park15.wakwak.com/~m-comi/>

「季刊まち・コミ」のPDFデータ版、2017年度活動報告、2017年度計算書類等、新規情報をアップしました。

③ まち・コミブログ・フェイスブック

日々の活動を中心に、活動を報告しています。2018年度はフェイスブックを中心に、日々の活動の記事を約80本アップしました。

④ まち・コミメールニュース

11通のメールニュースを送信しました。

ニュース以外にも “テーマ毎（勉強会・講演会）に興味のありそうな方”、“開催場所に近い方”、“学生を誘ってくださる先生”等、対象を絞って情報発信しました。

<2018年度メールニュース一覧>

送信日	内容	送信数
1/6・7・9	勉強会（御蔵学校）開催！／季刊まち・コミ冬号発行 ほか	4481
1/16	阪神・淡路大震災 1.17 関連のお知らせ	580
1/27・27・30	勉強会（御蔵学校）参加者募集／登壇情報 ほか	4489
2/20-23	勉強会の参加者募集／ラジオ出演情報 ほか	4559
3/5-7	3月9日 NHK テレビで放送／勉強会(in 神戸、仙台)参加者募集ほか	4636
4/2-4	勉強会のご案内（インドネシメラピ山噴火、糸魚川火災）ほか	4707
5/10・11・13	たまねぎ購入応援者募集、勉強会のご案内（イタリア）ほか	4847

6/1・3・5	たまねぎ購入応援者大募集／「季刊まち・コミ」春号 WEB アップ ほか	4912
6/20・22・25	じゃがいも・枝豆購入応援者募集、季刊まち・コミ WEB アップ ほか	5108
7/2・4・5	勉強会参加者募集、じゃがいも・枝豆購入応援社追加募集！	5112
10/5-7	黒大豆の枝豆購入応援者募集/第 57 回御蔵学校開催 ほか	5236

【事業実施体制】

(1) 会議に関する事項

①通常総会

開催日 平成30年2月10日 11時50分から11時55分

開催場所 兵庫県神戸市長田区御蔵通5丁目211-4号-101(当法人事務所)

出席者 11名(うち表決委任者6名)

議事内容 第1号議案 2017年度事業報告および2017年度決算報告承認の件

第2号議案 役員選任の件

第3号議案 定款変更の件

②理事会

第1回

開催日 平成30年2月10日 10時00分から11時50分

開催場所 兵庫県神戸市長田区御蔵通5丁目211-4号-101(当法人事務所)

出席者 7名(うち表決委任者4名)

議事内容 第1号議案 2017年度事業報告および2017年度決算報告承認の件

第2号議案 2018年度事業計画および2018年度活動予算承認の件

第2回

開催日 平成30年2月10日 11時55分から12時00分

開催場所 兵庫県神戸市長田区御蔵通5丁目211-4号-101(当法人事務所)

出席者 7名(うち表決委任者4名)

議事内容 第1号議案 代表理事および副代表理事選任の件

③事務局会議 月3~4回 出席者：宮定章、田中保三、戸田真由美

④理事懇談会 関西：7月13日、9月17日、関東：5月15日、7月25日

(2) 事務局体制

代表理事 宮定章

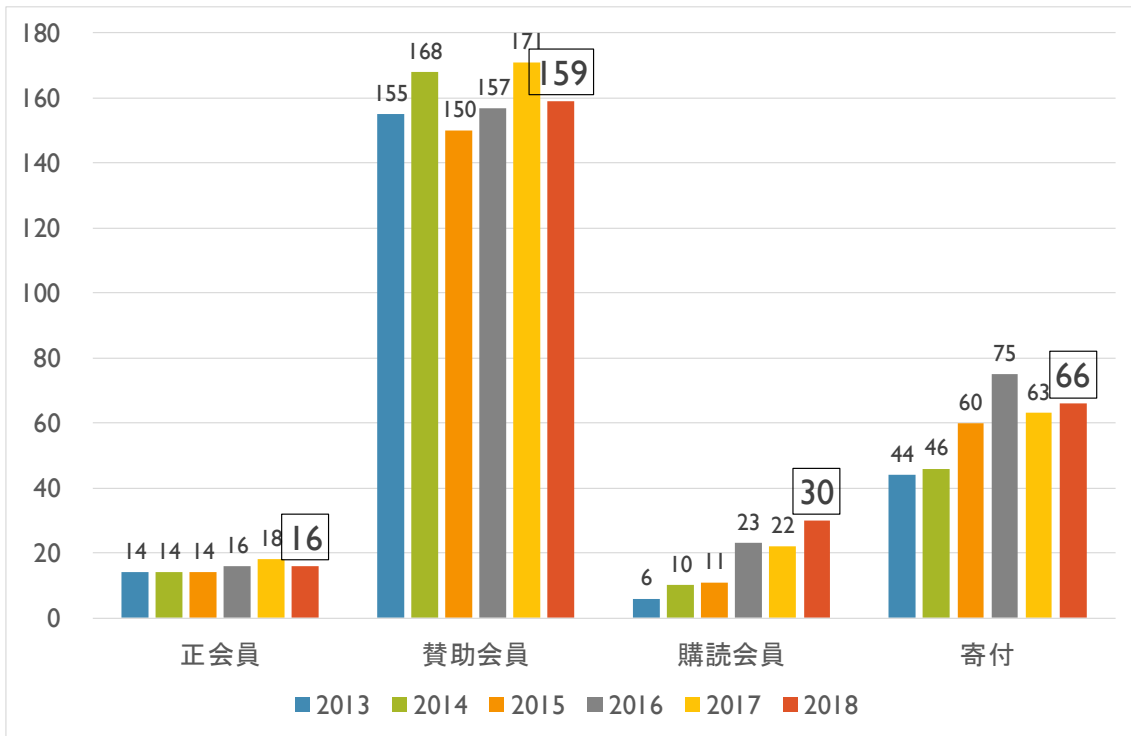
理事 戸田真由美

(3) 会員

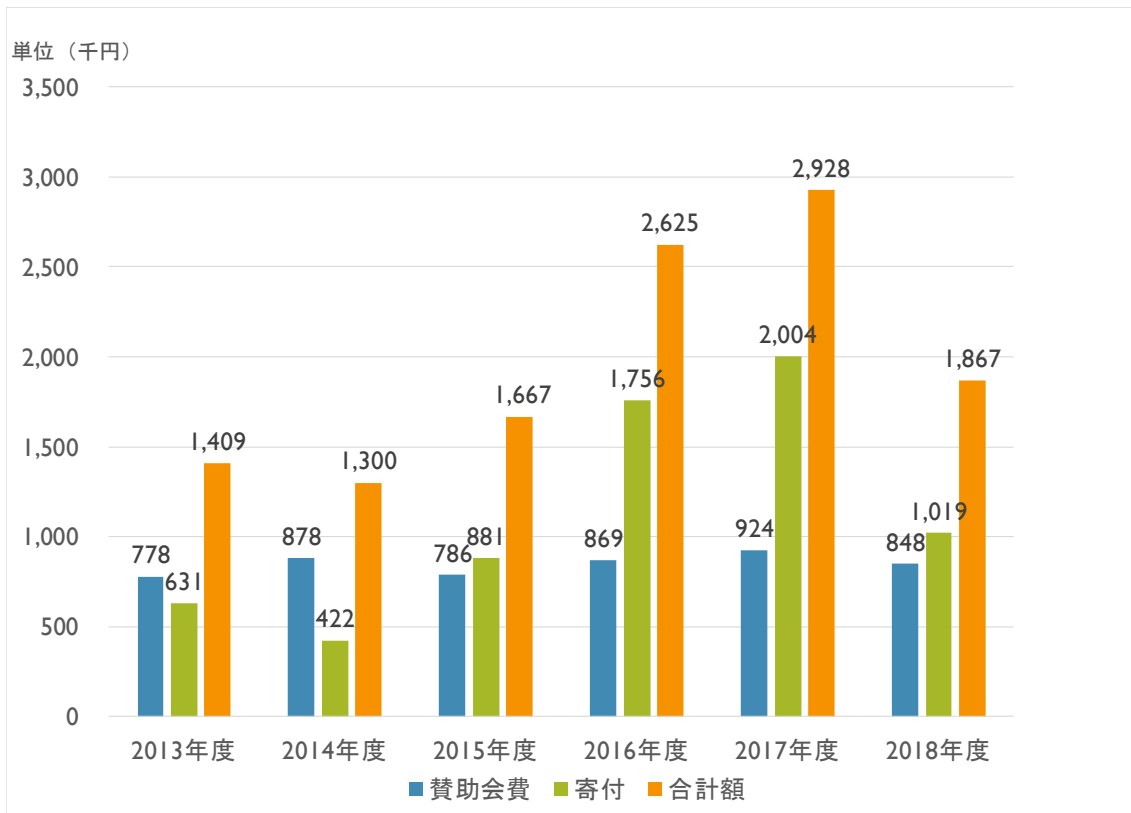
① 正会員 16名

② 賛助会員 159名

③ 購読会員 30名



▲ 会員・寄付者数の推移



▲ 寄付額(賛助会費+寄付)の推移

【資料】

●新聞掲載記事

1. 東北から神戸へ 絆の寄せ書き（朝日新聞 2018年1月17日）
2. 地域再生こそ真の復興 熊本、未来への教訓 阪神・淡路大震災23年（熊本日日新聞 2018年1月18日）
3. 神戸のNPO代表が見た台湾地震 観光業に打撃、訪問が支援に（神戸新聞 2018年2月15日）
4. 「復興って何？」答えを探して 見る思う（神戸新聞 2018年3月18日）
5. 野菜栽培で復興後押し 神戸の団体 豊岡・出石で交流作業（神戸新聞 2018年4月1日）
6. 生活再建 やり直せる配慮を（熊本日日新聞 2018年4月13日）
7. 農業通じ復興支援学ぶ 04年台風23号の被災地・出石でボランティア 地元や仙台出身の神戸学院大生ら（神戸新聞 2018年6月16日）

●テレビ

阪神・淡路大震災の経験から支援（NHK シブ5時 2018年3月9日）

●執筆

1. 次世代と一緒に災害復興に立ち向かいたい！～阪神・淡路大震災23年・東日本大震災7年・熊本地震2年の経験から～（日本災害復興学会 復興第21号 2018年3月11日発行）
2. 防災に役立つ公民館一人がつながり知恵が集まる（月刊公民館 2018年11月号）